

平成 30 年度 山形のみちづくり評議会(第1回) 議事要旨

1. 日時

平成 30 年 7 月 17 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 05

2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、藤田委員、塩原委員、津藤委員、宮原委員、小山委員、皆川委員、和田委員、角湯委員 10 名

3. 議事

- (1) 次期道路中期計画の骨子(案)について
- (2) 次期道路中期計画における各施策の取組み方針等について
- (3) 次期道路中期計画のタイトル、テーマについて

4. 議事概要

- (1) 次期中期計画の骨子(案)について
 - 次期中期計画の骨子(案)について、事務局より説明した。
- (2) 次期道路中期計画における各施策の取組み方針等について
 - 次期道路中期計画における各施策の取組み方針等について、事務局より説明した。
- (3) 次期道路中期計画のタイトル、テーマについて
 - 次期道路中期計画のタイトル、テーマの考え方について、事務局より説明した。
 - タイトルは「山形県道路中期計画 2028」に決定した。
 - テーマについては、第 2 回山形のみちづくり評議会にて協議することとした。

5. 山形のみちづくり評議会（第1回）における主な意見

主として、次期道路中期計画における各施策の取組み方針等について、以下のような意見交換がなされた。

(1) 広域道路ネットワークについて

- ・ インバウンド観光の振興のためにも地域高規格道路の整備促進に期待。

(2) 「道の駅」について

- ・ 「道の駅」のもつ防災機能について、地域住民への周知が必要。
- ・ 「道の駅」の整備では、成功事例が参考となるが、画一的にならないよう、誰かがコーディネーターとなって地域の意見をとりまとめ、柔軟に検討したほうが良い。

(3) 安心・安全について

- ・ 高齢者ドライバーが増加する中、自動車運転免許証返納後の移動手段の確保等について、県道路行政の立場からも触れておくべき。
- ・ 自動車の大型化、交通量の増加により、歩行者が追いやられている。交通安全事業は本来あるべき歩行者の安全性を回復する施策である視点を持つべき。
- ・ 大阪北部地震でのブロック塀倒壊を受け、通学路点検では交通安全以外の周辺環境の点検も必要。

(4) 防災について

- ・ 近年の気象変動を踏まえ、豪雨・豪雪に対する防災・減災対策についても明記すること。
- ・ 局所的な雨の降り方もきめ細かいメッシュで観測できるようになった。これらの観測データを活用した情報提供のあり方について検討が必要ではないか。

(5) 維持管理について

- ・ 幹線道路の完成などで交通状況が大きく変化する場合には、長寿命化対策等の整備の優先順位等を見直ししてほしい。
- ・ 農道や狭隘な市町村道において、観光バス等大型車の想定外の通行により路面等の損傷が見られる。市町村や地域と連携し、車種ごとの通行規制、路面標示による注意喚起、適切な通行ルートの情報提供などの対策検討が必要。

(6) 各施策の指標について

- ・ 県民が事業効果を実感できるような分かりやすい指標を検討すること。

(7) 観光について

- ・ 標識を多言語化では、視認性に配慮し、ピクトグラムの活用や英語表記のみにするなど工夫が必要。
- ・ インバウンド対策として、右ハンドルに慣れない外国人ドライバーに対する注意喚起等、道路交通の安全面に関する対策についてアイデアを考えてほしい。

(8) 道路ストックの活用について

- ・ 堆雪帯を確保した広い路肩は、車線なのか路肩なのか走っていて分かりにくい場合もある。路肩のカラー化を進めてもらいたい。

(9) 新たな制度・取組み等について

- ・ 山形県は、自家用車の所有率も高く高齢ドライバーも増加すると思われ、自動運転サービスを進めることが有効であると思われる。是非とも自動運転サービスの先進県になるように施策を進めてほしい。
- ・ 高速道路の暫定2車線区間における対向車線への逸脱防止対策として、国からワイヤーロープ等の整備を進める方針が示されており、本県においても進めてほしい。

以上